誓いの樹

1. テーマとの関係性

2050年に向けて地球規模の環境危機を乗り越え、**持続可能な社会を実現するために、行政、企業、NPO、個人がどのような行動を具体的にするか**、それぞれの想いを誓いの木に託す、象徴となる生命の“樹”を育てる。

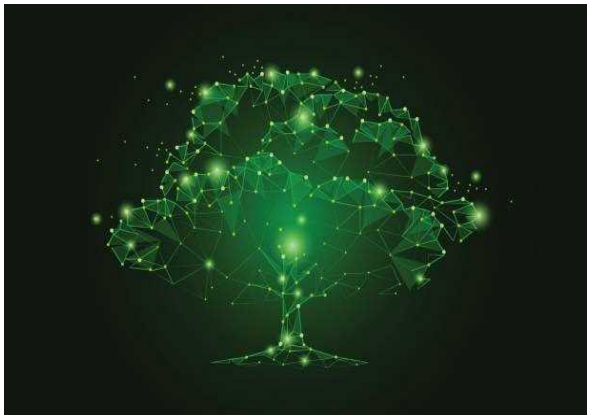
2. 来場者体験

- **「脱炭素」、「エネルギー」、「廃棄物」、「食料」などの複数の種（テーマ）**が時かれ、それぞれの樹を育てる。
- 来場者は、自分の誓いを書き込んで、樹に水を与える（投函する）。**投函が一定数を超えるごとに誓いの樹はアート作品として拡張**される。
- **リアルとバーチャルで構築**され、バーチャルでは誓いが集計され可視化。
- **10年後に解体し、木片はがきとして誓いを立てた者に送付**する。

3. 効果

- 地球規模の環境危機に**自ら誓いを立て参加することで意識変容**を促す。
- 将来的に今回のテーマを使った**シンポジウムや国際会議などを開催する場合のエクスカーション**の訪問先となる。

リアル・誓いの樹イメージ



バーチャル・誓いの樹イメージ

サブテーマ	
自然との調和 Co-adaptation	**連携による解決** Co-operation

事業コンセプト			
価値を再定義する Revise	**行動変容に繋げる** Change	**環境負荷低減を徹底する** Care	**繋がりを拡げる** Connect

「種」ミュージアム

1．テーマとの関係性

花、穀物、野菜などの植物の「種」に着目し、**遺伝子資源、遺伝的多様性を知る**。人から人へ**種が継承されてきたつながりの歴史**を学ぶとともに、**地元の農家やNPO等と連携**し、新たな園芸・農業の振興につなげる。

2．来場者体験

- 「種」をテーマに、**世界の植物の品種改良の歴史、種の伝搬の歴史**などをICTを活用して展示。
- 地元農家と連携した**地域の植物の種採取の体験**。
- **同じ種を異なる土壌・環境で育成**した場合の生育結果の違いなどをビジュアルに展示。

3．効果

- **植物の価値を再定義**するとともに、**多様性を認識**する。
- 都市における**地域に支えられた農業及び農家とのつながりの重要性**を学ぶ。

世界の「種」の紹介パノラマイメージ

収蔵種子の生長展示イメージ

「種」のコレクションイメージ

サブテーマ		
自然との調和 Co-adaptation	**緑や農による共存** Co-existence	**新産業の創出** Co-creation

事業コンセプト			
価値を再定義する Revise	**多様性に気付く** Find	**行動変容に繋げる** Change	**繋がりを拡げる** Connect

2.2　主催者展示（テーマ展示の例）

未来の風景　遥かなるディナー　～フード・トレーサビリティ～

1. テーマとの関係性

2050年を見据え、環境と調和した人間活動を継続していくために、自然と人間の関係性を見つめ直してこれからどのように行動していくべきか、**幸せな未来の風景を考える体験型レストラン**。

2. 来場者体験

- **生態系サービスの４機能（資源を提供する機能、生命環境を制御する機能、楽しみや安心を提供する機能、これらの機能を支える機能）を表現する**風景として、暮らしのなかで自然と触れ合う瞬間（＝未来に残したい自然）を写真で切り取り、オンラインに投稿する
- 集まった写真をベースに創った映像を**「未来の風景」**として展示施設全体に投影する
- 施設内で展開されるレストランで、地元野菜とともに自然の多様な表情を楽しむ

3. 効果

- **生態系サービスの恩恵に支えられている**生活を実感し、未来に残していくためにはどうすべきか、考えるきっかけとなる

投稿される写真　イメージ

ミュージアムレストラン　イメージ

サブテーマ		
自然との調和 Co-adaptation	**緑や農による共存** Co-existence	**連携による解決** Co-operation

事業コンセプト			
価値を再定義する Revise	**多様性に気付く** Find	**行動変容に繋げる** Change	**分かち合う** Share

光る生物の大花壇

1. テーマとの関連性

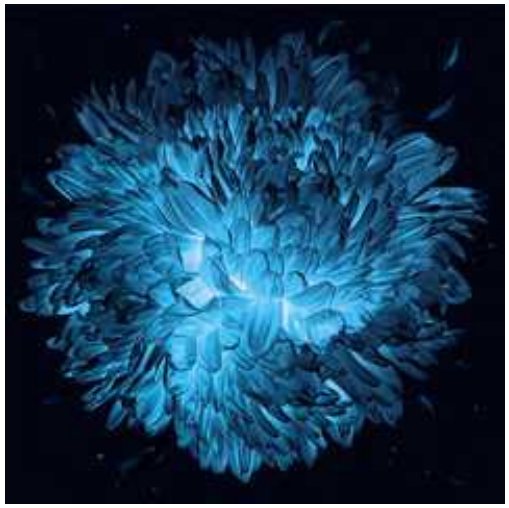
人類が自然の技術を取り込みながら、**園芸文化として自然と共生してきた歴史**を知り、**文化としての生態系サービスの価値**を体験する。また、**花き分野の新たなビジネス展開**の契機を提供する。

2. 来場者体験

- **江戸時代に品種改良**されて育てられた**朝顔の歴史**を知る花壇や、**自ら光る発光生物、バイオ技術による発光生物**で構成された大花壇を整備。
- アーティストや交響楽団と連携し、**光る大花壇を背景としたコンサート・イベント**等を開催することで、**夜の静寂の中で、神秘的な屋外フェス**を行う。
- 通常の自然界では見られない植物をみることができる他、コンサート・イベント等を、普段味わえない非日常的な神秘的な空間で、鑑賞することできる。

3. 効果

- **自然とふれあうことの喜びや楽しさ、人と人のつながりの大切さ**を再認識する。
- 光る生物は、観察する時間帯により様相が異なるため、**会期中に訪問する時間帯や時期を変えて、何度も訪問**する来場者が期待できる。



自ら光る発光生物のイメージ

品種改良朝顔の展示イメージ

サブテーマ		事業コンセプト			
緑や農による共存 Co-existence	**新産業の創出** Co-creation	**多様性に気付く** Find	**行動変容に繋げる** Change	**分かち合う** Share	**繋がりを拡げる** Connect

2.3　コンペティション

- AIPH規則に示された屋外庭園・屋内庭園および製品コンペティションを実施するほか、独自企画のコンペティションを実施
- 製品コンペティションでは、花き・園芸のブランド化や日本・横浜の特色を発信するようなカテゴリを検討

コンペティションの種類		
AIPH規則	屋外庭園・屋内庭園コンペティション	国、国際機関、自治体、企業、市民団体等による、常設庭園のコンペティション
	製品コンペティション	花き等観賞用植物および果物と野菜のコンペティション　　A）春　　B）夏　　C）秋
独自企画コンペティション		花き・園芸産業のみならず、本博覧会のテーマ、サブテーマに沿った多様なコンペティション

製品コンペティション

AIPH規則に示されたカテゴリ例

春	夏	秋
球根および塊茎植物	夏の花	テラスと鉢植え
植え込み	ゆり	バラ
蘭	レンリソウ属	鉢植え植物
春の花	野菜	観葉植物
鉢植え植物	カーネーション	植え込み
観葉植物	球根および塊茎植物	菊
フルーツ	フラワーアレンジメント	ガーベラ
野菜	フルーツ	秋の花
フラワーアレンジメント	植え込み	フラワーアレンジメント
テラスと鉢植え	鉢植え植物	球根および塊茎植物
	観葉植物	フルーツ
		野菜
		盆栽

カテゴリの検討要素

- 花き園芸のブランド化
- 研究成果や新技術の発信
- ビジネス発展
- 日本・横浜の特色（文化や、歴史性）
- 日本・海外の花き園芸のトレンド

本博覧会での実施案

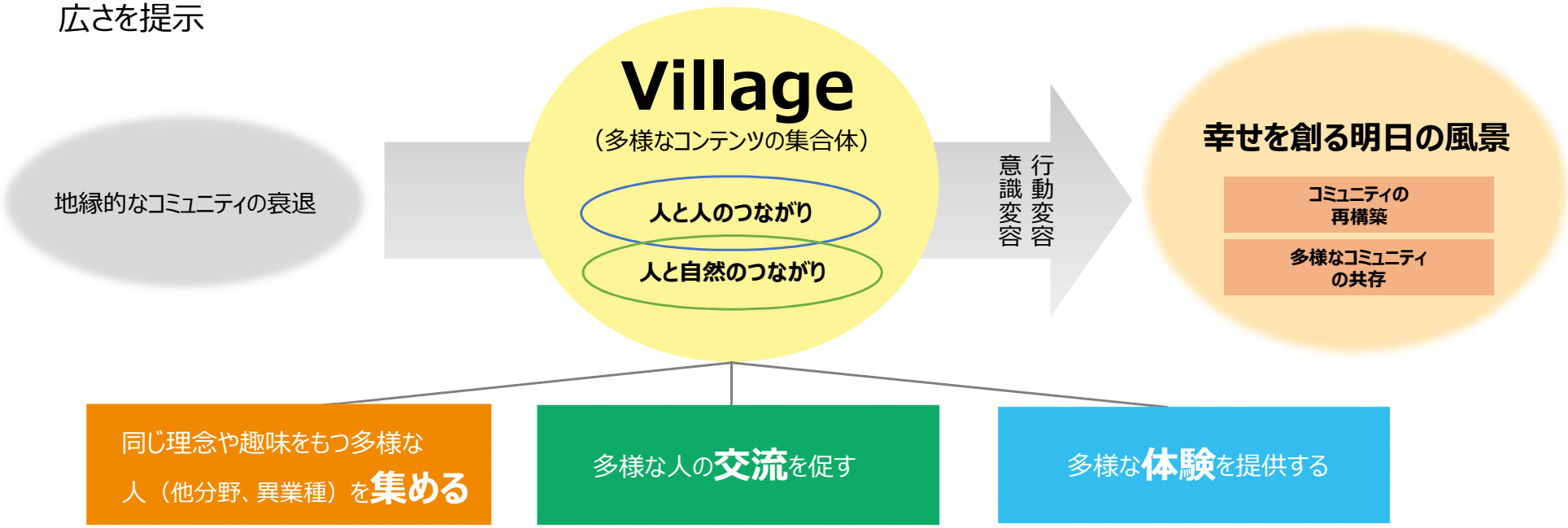
- カーネーション
  （日本の高い技術を発信しブランド化）
- 盆栽（日本文化の発信）
- バラ（日本はバラの自生地）
- ユリ
  （開港時、横浜からのユリ根の輸出の歴史）
- ラン
  （開港時、横浜へのランの輸入の歴史）
- フルーツ
  （日本の高付加価値化な果物のPR）
- 夏の花 朝顔（江戸の古典園芸植物）
- 菊（江戸の古典園芸植物）
- フラワーアレンジメント（和のテイスト）

3.1 Village

2027横浜
国際園芸博覧会

◆「参加・交流・体験」を促進するコミュニティ創出の場

- 人は、**周りの環境（人、動物、自然など取り巻く環境全般）との「つながり」から幸せを感じる**が、近年の均質化された都市や多様化する価値観のもとでは、かつて里山の集落などで見られた地縁的なつながりによるコミュニティは衰退
- 一方で、情報技術の進展やストレスを受けて、本能的に自然を求めてリアルな体験に惹かれていく傾向が強まっている現在においては、地縁的つながりに代わり、共通の理念や趣味などをきっかけにした**多様なつながりによるコミュニティが増加**
- 本博覧会では、多様なコンテンツ（庭園、展示、飲食など）を複合させ、**人や自然とのつながりを体現するコンテンツの集合体＝「Village」**を形成。Villageには、従来型コミュニティの中核施設（公民館等）が担っていた３つの機能**「人を集める」「交流を促す」「体験を提供する」**を持たせる。
- 会場内にメッセージ性の異なる複数のVillageを配置して、多様で新たな「つながり」を体現することで、「幸せ」の幅広さを提示



Villageの３つの機能＝コミュニティに必要な機能

3.2 Villageにおけるテーマ・サブテーマの展開

◆Villageとサブテーマ及びコミュニティの関係

- 各コンテンツは、単体もしくは複数のサブテーマを体現。ひとつのVillage内に複数のコンテンツを組み合わせて配置することにより、**単独のVillageでもすべてのサブテーマを体現**できるようにする
- 各コンテンツは、サブテーマの体現すると同時に、Villageの３つの機能のいずれかを重点的に担うことを明確にする。ひとつひとつの**Village内に、コミュニティに必要な機能が過不足なく含まれる**ようにする
- コミュニティの構築には、まずは人を集めることが重要。**話題性のあるコンテンツにより人を集め、**そのコンテンツを通じてVillageに集まった人々が**Village内で交流し、**さらに**様々な体験により「つながり」を記憶に残せるようにする**
- 博覧会参加後に、暮らしのなかで新しいつながりをつくり、**コミュニティの構築に関わっていくことができる仕組み**をVillageで展開